

大学・短大希望生徒ガイダンス

1、入試形態について

～昨年度	今年度以降	試験の内容	時期
AO入試	総合型選抜 (専願)	<p>詳細な書類審査と面接等を組み合わせ、総合的に判定する入試方法。</p> <p><u>面接に加えて、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、大学入学共通テスト等</u>が行われる。</p> <p><u>出願条件に評定平均を課していない場合も多いが、出願する前にエントリーするための一定の課題(オープンキャンパスへの参加、小論文、面談、志望理由書の提出等)を課し、その出来によってエントリーを許可された者のみが出願することができるシステム。</u></p>	<p>試験 9月以降</p> <p>合否発表 11月以降</p>
推薦入試 (公募制推薦、指定校推薦)	学校推薦型 選抜 (専願)	<p>〈<u>公募制</u>〉※名称未定</p> <p><u>大学側が指定する出願条件をクリアし、かつ、高等学校長の推薦が必要。調査書を主な資料として、学科試験や小論文等の結果も踏まえて判定する入試方法。大学ごと、出願時期によって倍率も異なる。</u></p> <p>〈<u>指定校</u>〉※名称未定</p> <p><u>大学側が指定した高校のみ、評定等の条件をクリアした生徒に出願資格が与えられる。推薦枠は少数で、どの大学でも、どの学科でも推薦枠があるとは限らない。また校内で競合する可能性も高い。従来は面接だけの学校も多かったが、今後は小論文等、学科試験が課されるようになる。</u></p>	<p>試験 11月以降</p> <p>合否発表 12月以降</p>
一般入試	一般選抜 (併願可能)	<p>〈大学入学共通テスト〉</p> <p>大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストが実施される。1回の試験結果で複数の大学に出願し、合否を得ることができる。</p> <p>〈大学ごとの一般選抜〉</p> <p>大学が作成するテストを実施し、その結果で合否を判定する。</p>	<p>試験 1月以降</p> <p>合否発表 1月以降</p>

2、注意点

- ①大前提…進路行事は正装、黒のペン、総学ファイル、進路のしおり
…書類記入上の注意修正液×、校名や学部名は正式なものを記入。
- ②3年次に欠点がある、3年次に生徒指導上の問題で校長からの指導を受けている、3年間で合計20日以上欠席がある場合には推薦を行わない。その他に細かい条件あり。(進路のしおり最終ページをよく見る!)
- ③出願書類は必ず担任にチェックしてもらい、勝手に出願するようなことはあってはならない。
- ④志望校選び…1校に絞らない。3校は常に挙げておく。(取得できる資格・合格率、就職率、学費、偏差値等をよく比較する)
- ⑤学校推薦型選抜(指定校)の場合、自分の評定を確認し、校内出願基準について見る。(しおりの最後のページ)
- ⑥受験の基本パターン…まず総合型選抜(AO)→三郷北高校に推薦枠があり、かつ条件をクリアしている場合学校推薦型選抜(指定校)→学校推薦型選抜(公募)
どんな流れで自分が受験していくのか、日程や倍率、受験科目も調べる。
- ⑦エントリーや出願する前に、必ず担任に相談、報告し、エントリーする前にはエントリー申込書を提出すること。
- ⑧模擬試験や面接ノートの提出など、学校で指示された指導にはしっかり従うこと。
- ⑨合格通知後、(10月頃) 1週間以内に入学金+授業料半期分(平均100万円)を納入する大学が多い。奨学金が利用できないため、家庭で用意する必要がある。
- ⑩専願…受験して合格した場合には必ずその学校に入学する、という出願方式。(お金の都合や自己都合等、辞退は絶対にできない。) 出願書類を提出した日から合格発表日まで、他の学校(同じ大学でも違う入試)に出願することは絶対にできない。
- ⑪ポートフォリオの提出が求められる大学がある→Classiに入力している内容を活用して出願。
- ⑫評定平均を上げる(普段の授業、提出物、定期考査!)
- ⑬見学報告書の作成…推薦入試に出願する際は、見学報告書を担任に提出することが必須になる。オープンキャンパス以外の日程で行く際には、大学に事前にアポを取ることが望ましい。2校目以降の見学報告書は進路指導室前のレターケースにある。5月8日(金)までに最低1校分の見学報告書を担任に提出すること。WEBでオープンキャンパスを実施している学校もあるが、見学報告書に記入はできない。必ず、出向くこと。

3、1学期の進路の流れ

- …教室に掲示してある進路カレンダーや担任の先生からの連絡をよく聞くこと
- 4月18日(土) 保護者対象説明会 全員参加
- 22日(水)～二者面談 将来の職業、学部の繋がり、資金等話せるように
- 5月 1日(水)第1回進路希望調査×切
- 7日(木)～面接ノート作成

21日(木) 進路用写真撮影 ワイヤ襟、ブラジャー汚れ、頭髪

6月1日(月) ベネッセ実力診断テスト提出 希望者のみ(一般受験希望は必ず)

4日(木) ~ 10日(水) **3者面談 志望校3校分のパンフレットを持参**

模擬面接 入退室は完璧に 入試に面接がなくても参加。

7月10日(金) 受験申込書提出(ここまでに3校分の受験プランを明確にする)

7月31日(金) 13:00 \times 切 見学報告書最終(学校推薦型選抜(指定校)の必要書類)

8月 3日(月) 大短学校推薦型選抜(指定校)一覧発表 ※これより後に増える学校もある。

7日(金) 13:00 \times 切 大短学校推薦型選抜(指定校)受験申込書、確認書

26日(水) ベネッセ実力診断テスト 大学・短大希望者は原則として全員受験

大短学校推薦型選抜(指定校)校内選考結果通達

4、 受験プラン例



Aさん 教員養成系 K大学志望 評定2.9 欠席5日

① 3年1学期まで進路のしおりで指定校があるか、その条件を確認→ある。条件全体評定3.5以上かつ欠席20日以内。3名。

↓指定校を断念

② 3年1学期K大学のHPから募集要項を確認し、総合型選抜(AO入試)の条件を確認。→ある。条件オープンキャンパスの参加。

↓総合型選抜(AO入試)を受けることに決める。

③ 3年夏休みK大学のオープンキャンパスに参加し、課題を受け取り、担任とその課題に取り組み、入試の準備をした。またK大学の見学報告書を担任に提出した。

↓課題はどんな教員になり、どんな授業をしたいかをプレゼンする内容だった。練習にかなりの時間を要した。

④ 3年夏休みK大学が不合格になったときのことを考え、総合型選抜(AO入試)で第二期まで挑戦してダメだった場合は、少しランクを落として、教員免許の取得できる第二志望のT大学を担任から教えてもらい、オープンキャンパスに参加し、見学報告書を作成、提出しておいた。

↓自分では大学のランクがよくわからないので、担任の先生から過去の三郷北からの実績を聞いておいた。

⑤ 3年2学期第一期9月の総合選抜型(AO入試)にエントリーしたが、出願が許可されなかった。

↓第一期の受験が終わった後、すぐに、第二期に向けて準備(調査書の発行依頼等)を始めた。

⑥ 第二期に11月の試験にエントリーしたが、またも出願が許可されなかった。

↓第二希望としてT大学を前から上げていたので、余裕をもって書類の準備ができた。

⑦ K大学では厳しいので、第二志望のT大学に出願することを決める。

↓万が一、第二期も不合格だったら大学を変えることを、夏休みに保護者と担任に伝えておいた。

⑧ T大学の学校推薦型入試(指定校)が残っていることを担任から聞き、必要書類を提出。

↓

⑨ T大学の学校推薦型入試(指定校)の校内選考を通り、推薦を受けることができた。

↓

⑩ T大学の学校推薦型入試(指定校)を受験し、合格。保護者と入学手続きに向かった。

Aさんの作戦ポイント

・評定に自信がなかったので、第一志望校K大学の総合型選抜(AO入試)の準備を早くから始めた。

・K大学に挑戦する回数をあらかじめ決めておき、夏休み中には第二志望校T大学の情報も担任の先生から教えてもらい、入試の準備もしていたので、余裕をもってT大学の受験準備ができた。

・第二志望のT大学の学校推薦型入試(指定校)が全っていない場合は、学校推薦型入試

Bさん 社会系学部希望 A大学志望 評定4.5 欠席0日

1. 3年1学期まで進路のしおりで指定校があるか、その条件を確認→ある。条件全体評定3.8以上。1名。

↓指定校に挑戦することを決める

2. 3年1学期しかし、1名枠であるため、学校推薦型選抜(指定校推薦)で校内選考から外れてしまった場合に備えて、同じA大学の総合型選抜(AO入試)の準備を始める。

↓3年夏休み学校推薦型入試(指定校推薦)での面接と小論文、総合型選抜(AO入試)での学科試験の勉強を夏休みから開始。またキャンパス見学に行き、見学報告書を提出。

また、学校推薦型選抜(指定校・AO)が両方ともダメだった場合は、第二志望のR大学を受験することを決め、R大学のオープンキャンパスに参加し、見学報告書を提出した。

1. 3年2学期今年度の指定校一覧を確認し、昨年と変わらない条件で募集があることを確認。

↓去年まで推薦枠があっても、枠がなくなったり、条件が厳しくなったり、人数が減ったりすることはよくあるので、必ず確認。

2. 校内で指定校の募集に関する説明会に参加し、校内選考に出願。

↓キャンパス見学報告書、指定校出願用紙を提出。面接、小論文、学科の対策は引き続き続ける。

3. 校内選考に通ったことを担任から聞き、面接と小論文の対策に集中する。

↓

4. 必要書類をそろえ、担任・進路の先生を通じて出願し、受験、A大学に合格した。

翌日、保護者と入学手続きに向かった。

Bさんの作戦ポイント

・評定に自信はあったが、学校推薦型入試(指定校)の枠が少ないので、第一志望校のA大学の別の入試方式の準備を夏休みからしておいた。

・万が一、学校推薦型入試(指定校)も、総合型選抜(AO)も不合格だった場合は、ランクを落とした別の大学の受験をする準備をしていた。